



テールアルメ擁壁

国土交通大臣認定擁壁（宅地造成等規制法施行令第15条）

各種の都市基盤整備に貢献するテールアルメ工法。
多くの宅地造成で採用されています。



安全で良質な宅地の供給に貢献いたします。

テールアルメ工法は、補強土工法で唯一認定を受けた 国土交通大臣認定擁壁です。

他工法に比較して適用範囲が広く、コストも軽減化。 宅地造成に数々のメリットを提供します。

フランスで開発されたテールアルメ工法は、平成10年3月に宅地造成工事規制区域への適用を国土交通大臣より認可されました。道路、鉄道、産業施設などの幅広い用途で、25年におよぶ豊富な実績を積んできたテールアルメ工法は、テールアルメ擁壁として、宅地造成においても数々のすぐれたメリットを発揮します。宅地の景観や周辺の環境などと調和できるように、コンクリートスキンの表面にはデザイン、カラーリングを施すことができます。

他工法と比較してコスト面でも有利なテールアルメ擁壁は、機能性、効率性、環境保全のあらゆる面からサポートします。



テールアルメ擁壁

- 擁壁のタイプ 盛土補強土壁工法
- テールアルメ擁壁は、砂質系の盛土材料を使用し、盛土に際して上下方向37～75cmにストリップと称するリブ付き帯鋼を配します。このときストリップは、表面を覆うコンクリート製壁面材（コンクリートスキン）とボルトにより連結されます。テールアルメ工法は、ストリップと土の摩擦力を介して、土圧をストリップの引張力に換えて、斜面崩壊を保護する機能を有する組立式の擁壁です。
- 平成10年3月24日に「テールアルメ擁壁」は、宅地造成等規制法施行令第15条の規定に基づき、同令第6条に規定する擁壁と同等以上の効力があるものと認定されました。宅地造成工事規制区域内への適用が可能になりました。

テールアルメ工法の特長

環境に優しい

規格品の組合せが大半を占める静かな工事で、一般に杭打などを必要としないので、騒音や振動等はほとんどありません。

最小限の用地幅

垂直擁壁のため、用地は最小限ですみ、宅地を最大限に有効利用することが出来ます。

短期間で施工

規格化されたプレハブ工法のため、現場での施工性がよく、工期短縮が可能です。

美しいデザイン

規格部材の他に、用途や環境調和等の目的に合わせたカラスキン、デザインスキンも製作できるため、造成他のイメージを考慮した擁壁に仕上げる事が可能です。

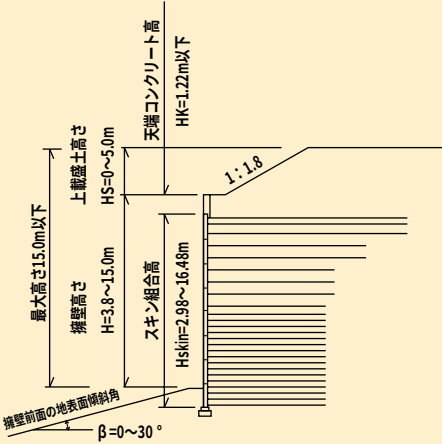
品質管理が万全

使用部材はすべて厳しい品質管理のもとに、日本テールアルメ協会認定工場で作製される規格品のため、現場では安心して使用することができます。

高壁高が可能

従来の擁壁に比べて、低コストで壁高が最高15mまで構築出来ます。

テールアルメ擁壁の一覧

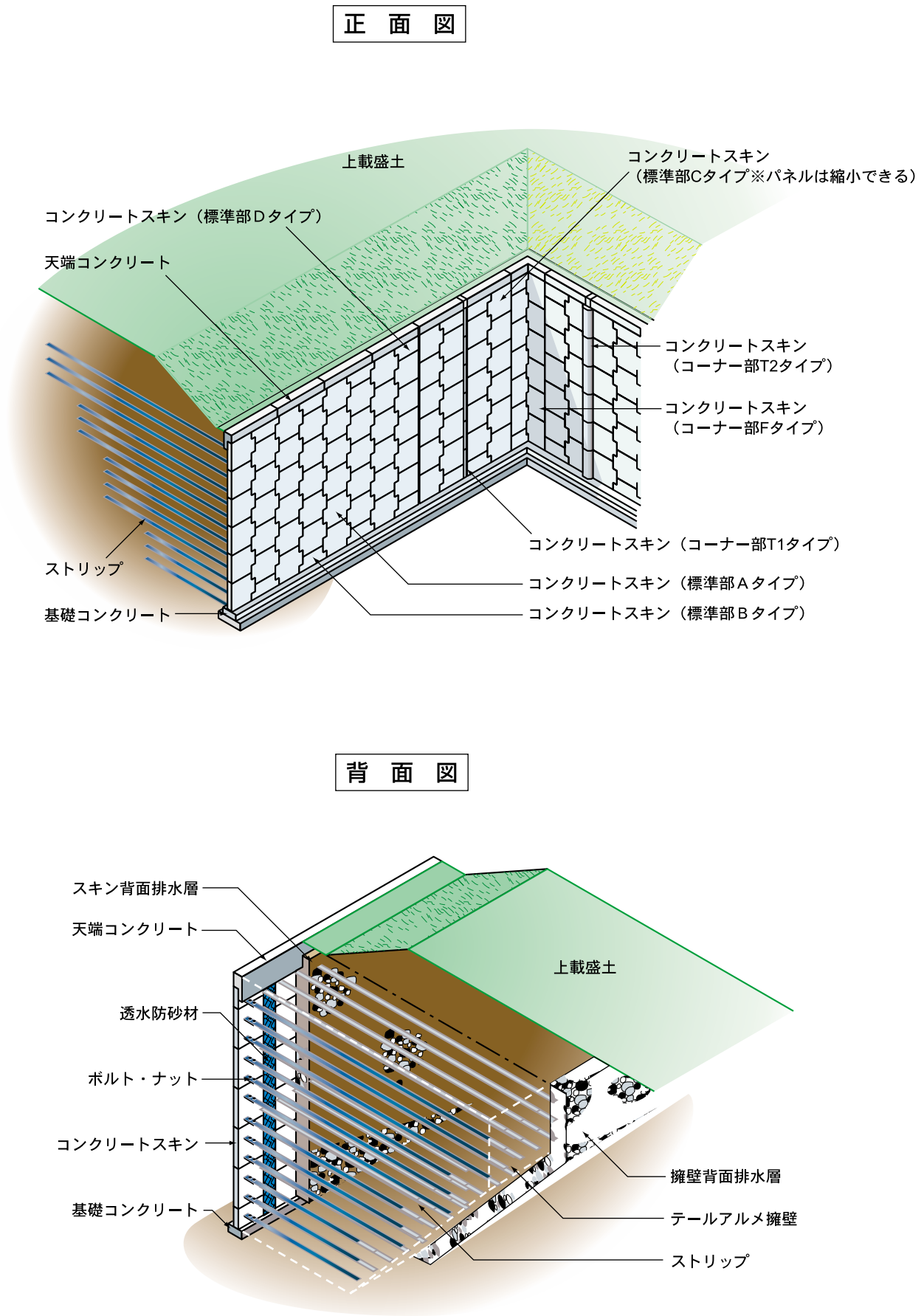


■上載盛土高 HS=0m 壁前面の地表面傾斜角 β=0~30°										
擁壁高さ	H=(m)	3.80	4.50	5.18	5.86	6.54	7.22	7.90	8.59	9.27
スキン組合高	Hskin(m)	2.98	3.73	4.48	5.23	5.98	6.73	7.48	8.23	8.98
必要根入深さ	Df(m)	0.40	0.45	0.52	0.59	0.66	0.73	0.80	0.86	0.93
擁壁高さ	H=(m)	10.63	11.31	12.00	12.68	13.36	14.04	14.72	15.00	15.00
スキン組合高	Hskin(m)	10.48	11.23	11.98	12.73	13.48	14.23	14.98	15.73	16.48
必要根入深さ	Df(m)	1.07	1.14	1.20	1.27	1.34	1.41	1.48	1.95	2.70

■上載盛土高 HS=3.0m 壁前面の地表面傾斜角 β=0~30°										
擁壁高さ	H=(m)	3.80	4.50	5.18	5.86	6.54	7.22	7.90	8.59	9.27
スキン組合高	Hskin(m)	2.98	3.73	4.48	5.23	5.98	6.73	7.48	8.23	8.98
必要根入深さ	Df(m)	0.40	0.45	0.52	0.59	0.66	0.73	0.80	0.86	0.93
擁壁高さ	H=(m)	10.63	11.31	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00
スキン組合高	Hskin(m)	10.48	11.23	11.98	12.73	13.48	14.23	14.98	15.73	16.48
必要根入深さ	Df(m)	1.07	1.14	1.20	1.95	2.70	3.45	4.20	4.95	5.70

■上載盛土高 HS=5.0m 壁前面の地表面傾斜角 β=0~30°										
擁壁高さ	H=(m)	3.80	4.50	5.18	5.86	6.54	7.22	7.90	8.59	9.27
スキン組合高	Hskin(m)	2.98	3.73	4.48	5.23	5.98	6.73	7.48	8.23	8.98
必要根入深さ	Df(m)	0.40	0.45	0.52	0.59	0.66	0.73	0.80	0.86	0.93
擁壁高さ	H=(m)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
スキン組合高	Hskin(m)	10.48	11.23	11.98	12.73	13.48	14.23	14.98	15.73	16.48
必要根入深さ	Df(m)	1.70	2.45	3.20	3.95	4.70	5.45	6.20	6.95	7.70

申請擁壁標準築造定規図



テールアルメ擁壁の用途



土地造成

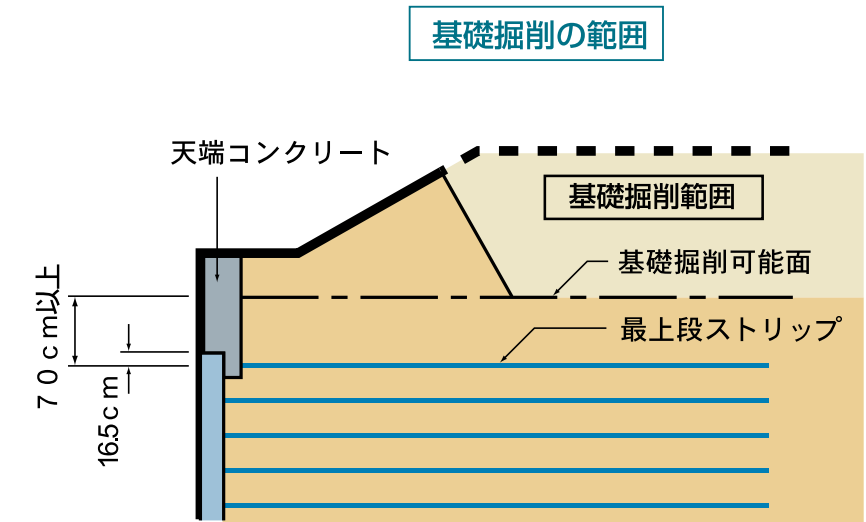
(住宅団地、工業団地、各種学校、病院、ホテル、マンション、通信施設、ごみ処分場、ごみ焼却場、火葬場、資材置場、遊園地、多目的公園、ヘリポート、老人ホーム、保養所及び墓地等)

- その他、競技施設、自動車教習所、商業および産業施設、自動車テストコースなどの造成においても擁壁範囲の用途が制限されています。
- 擁壁の設置場所は、擁壁背後の土地の利用制限を将来にわたって担保するため、テールアルメ擁壁は地方公共団体またはこれに準じる機関が管理することとなる土地、もしくは地区計画等により土地利用計画が確実である土地の区域に限定されています。

注) 上記用途は、宅地造成等規制法第8条(宅地造成に関する工事の許可)を必要としない造成工事も含まれています。

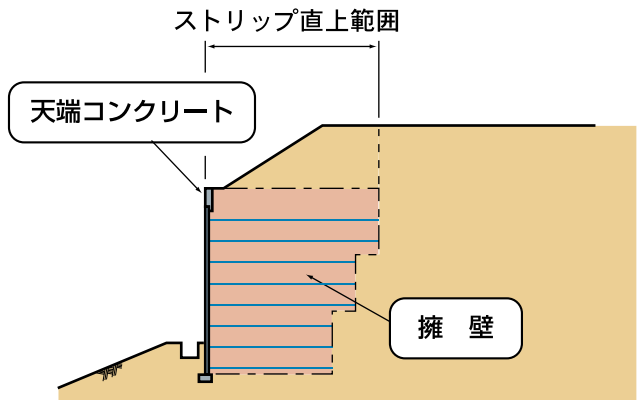
●本擁壁背後の土地の利用制限

ストリップ直上範囲には、建築物・工作物は構築できません。ただし、仮設構造物及び軽微な工作物(フェンス、仮設ハウス、ガードレール、電柱、ベンチ等)で基礎掘削を伴う場合は、掘削深さが最上段ストリップ上面より70cm以上確保されているものは除く。



- テールアルメ擁壁** コンクリートスキン、天端コンクリート、ストリップ及びストリップが敷設される盛土部分をいう。
- ストリップ直上範囲** ストリップが敷設される範囲を地表面に投影した部分をいう。
- 擁壁範囲** 壁前面の地表面とコンクリートスキンの交点を起点として、水平面に対して30°の勾配を有する面を考える。この面と擁壁頂部の地表面との交点位置における鉛直面とコンクリートスキンに挟まれた範囲をいう。

(1) ストリップ直上範囲



(2) 擁壁範囲(用途制限範囲)

